

<修繕工事等が続いており、ご迷惑をおかけし申し訳ありません>

開設 22年を迎えた富田林苑の建物や設備といったものがこの数年いたるところで悲鳴を上げているような気がします。特に開設当初からある設備備品等にはもはや部分補修では限界があり、古い製品ゆえに部品がもう手に入らず備品そのものをまったく新しいものに入れ替えなくてはならないような事態も起こっています。

建物にいたってはどうしても多額の費用を要するものばかり、今までは、とりあえず壊れた部分のみを応急処置するだけという繰り返しで根本的に改修をする等ということは殆どなかったように思います。今になって考えればあの頃から長期的な視点に立ち計画をしていけばな、という思いもするのですが、当時としてはそんなことより借金である償還金の返済が最優先、それに毎年下がり続けた報酬単価等々に経営の危機感を感じざるを得ない状況であったと管理者は過去をふりかえり語ってくれました。厳しさを増す経済状態のなか、数年前より法人の指導で「経営」という概念が取り入れられ、そうした時期から少しずつではあるがリーダー達が建物の修繕や備品の購入、又はその維持をしていくために何をどのようにしていかなければならないのかという意識が真剣に芽生えてきたように思います。年度末、お金が残ったからそれを単純に貯めるというのではなく、来年度の事業計画で目的を達成するための引当をしていくという意識を持てるようになってきたように思えます。

昨年、これらのことをさらに一歩進めていくためビル管理会社に協力をお願いし、向こう30年間にわたる施設の「長期修繕計画書」を作成いたしました。とかく建物というものは、壊れた部分のみ修理していけばいいのではなく、保守管理というメンテナンスをすることで、壊れてから修理する費用とは比べものにならないほど節約出来る事を学びました。とにかくフコからのアドバイスに「なるほど」と思えることばかりでただただ納得。それらのこともあり、富田林苑ではこの「長期修繕計画」に沿いながら工事等をすすめているところです。

ところで、小生、理由あって月に数回病院に採血検査をしに行っています。その病院では最近いたるところで改装工事が行われ採血室も例外ではありません。改装前は、シングルで横一列の長テーブルでの採血はどんな混雑時であってもスムーズに流れ、待たされることなど全くなかったと記憶しています。ところが改装後、確かに採血台は隣との仕切りも出来、荷物置きまである個別的な場所はきれいで見栄えのあるものになったにもかかわらず、狭く出入りがしにくく足元の弱いご高齢の人にとっては実に使いにくいものになっているように思われます。そのためか待ち時間も確実に増えたような気がします。病院側としてはきっと患者さんの為という目的で改装されたとは思いますが、患者側にとっては本当にその改装が役に立っているのかどうかは別ではないかと思えます。我々も、利用者の為にと、顧客満足の為にとという言葉が簡単につかい事業をおこなっているつもりですが果たしてその通り利用者本位となっているのだろうか、そうではなく、我々の自己満足だけになっているのではないかということをもう一度見渡してみる必要があるような気がします。

# 花まつり

4月8日10時30分から2階ホール太子像前にて花まつりを行いました。

苑長によるお経の後、「約2600年前の4月8日にお釈迦さんのおかあさんが旅の途中、急に産気づいて花の綺麗なところでお釈迦さんをお産みになり生まれて直ぐに7歩歩いて右手の人差し指で天を指し、左手の人差し指で大地を指し「天上天下唯我独尊」と発した。その時に甘露の雨が降ったことから4月8日にお釈迦さんの誕生日のお祝いを花まつりとして、今日に至っている」と花まつりの由来のお話を聞き、甘茶を頂きました。



食事は2階の特浴場の工事の関係で食堂に移動し行事メニューの海鮮丼・ミニかき揚げうどん・桜餅・三色だんごを美味しくいただきました。

## 編集後記



雨にぬれたあじさいの風情ある姿が楽しめる季節になりましたね。今年度の富田林苑は、建物など生活環境の改善に力を入れる1年になりそうです。

また、さくらともものグループに分かれ、利用者のニーズに合わせた個別活動が充実した生活が送れるように富田林苑が変わります。

新しい職員と共に、一同気を引き締めて今年度も頑張っていきたいと思っております！！

さて、今年度の苑だより「とんだ囃子」は、森元・塩入・大塚・椎谷・新人職員の酒井が担当いたします。

皆さまに読みやすく、楽しくて面白い苑だよりを作っていきたいと思っています。苑だよりについてのご意見・ご感想などありましたら、担当までお知らせ下さい。お待ちしております。

また、インターネットのホームページにてブログを随時更新しており、最新の富田林苑の情報が見る事が出来ます。アクセスしてみてください。

では、次回の「とんだ囃子85号」をご期待下さい。